文学部

Ⅰ　教育水準　.....　教育 10-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 10-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、４学科 27 専修課程からなり、人間と文化のあらゆる側面にわたる専門教育を行うために、学内外の兼任教員の協力を得て、多分野の講義と個別指導が可能となるような徹底した少人数教育による演習を保証し、新たな研究成果を教育に導入する柔軟な組織編成がなされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、新任教員研修、文化交流茶話会を実施し、教育改善講習会ではファカルティ・ディベロップメント（FD）に関する講演会を実施した。さらに、学生に対する授業アンケートの実施や教育改善検討小委員会の設置等により、新しい研究動向に対応した教育内容・方法の改善（「多分野講義」、「応用倫理教育プログラム」、「アカデミック・ライティング」等）を推進しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準を上回る

[判断理由]

「教育課程の編成」については、前期課程（２年次後半）に多くの基礎的な概論・概説科目を開講し、前期課程（教養学部）から後期課程（専門学部）への円滑な移行が図れるように配慮がなされ、その上で高度な専門知識（ディシプリン）の涵養が目指されている。他方で、専門性に偏ることのないように多分野にわたる専門横断型の科目や、新たな社会的要請に対応する科目、高度に実践的な能力の養成を目的とする科目が設置されているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、ディシプリンを重視する一方で、今日的な要請に応える横断型科目の設置、国際的なプレゼンテーション能力の養成・向上を目指す「アカデミック・ライティング」授業の開講、実践的な情報処理能力の涵養を目指す

教育等にも力を入れているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、文学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、専修課程ごとに講義、演習、卒業論文・特別演習指導の授業形態がバランスよく設定されているほか、演習では少人数教育の徹底やティーチング・アシスタント（TA）の適宜配置もなされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、適宜ガイダンスが行われ、主体的な学習を促す取組となっており、また、助教及び大学院学生も含めた在学生からの指導、ウェブサイトの活用、図書室の開室時間の延長等がなされているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準を上回る

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、卒業生の平均修得単位数が平成 19 年度では 92.6 単位と卒業要件の 84 単位を大きく上回っており、また、２年で卒業する者の比率が平成 19 年度では 68％と上昇している。さらに、卒業論文の学術的水準は高いものが多く、例えば、日本史関係の地方史にかかわる卒業論文では、地方史研究協議会主催の「卒業論文発表会」に選ばれている。卒業生の就職先からの聞取り調査により学力・能力・資質が評価されており、また、卒業生のアンケート調査からも学部の教育内容について評価を得ているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成 17 年実施の全学学生生活実態調査

のうちカリキュラムに関する評価で 67.6%の学生が「満足」あるいは「まあ満足している」と回答し、また、平成 19 年度卒業生を対象に行った文学部独自のアンケートでも、81.9%が「文学部での教育に満足している」と回答しているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、文学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、卒業生の 30%弱が進学し、就職者の比率も 65%と上向いており、しかも、採用数の少ない分野にもコンスタントに卒業生を送り出しているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業生の就職先からの聞取り調査により高い評価を得ており、また、卒業生のアンケート調査によっても学部の教育内容について高い評価を得ているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、文学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は２件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。